



運動推進 NEWS

まちづくり60年 そして未来へ

令和4年4月号 第212号

(令和4年4月15日)

公益社団法人 東京のあすを創る協会

中央区八重洲2-11-7 東栄八重洲ビル6階

Tel 03-3272-0213 Fax 03-3272-1257

Eメール tou-asu@netjoy.ne.jp

◆コロナ禍での地域活動は～アンケートから

オミクロン株による感染第6波が峠を越え、3月21日にはまん延防止等重点措置が全面解除されました。しかし、東京都の感染者数は今、下げ止まりとなり先行きが見えません。新型コロナウイルスによる未曾有の世界的な感染拡大が始まって2年余りが経過しましたが、今も社会生活全般において少なからず制限、制約を受けざるを得ない状況が続いています。当然のことながら各団体の活動も、この間、多くの制約を受けざるを得ませんでした。今回、コロナ禍の中での活動についてアンケートをお願いしましたが、活動が思うにまかせず苦慮する実態が浮き彫りになりました。ここでは、寄せられたコメントを掲載いたします。

○生活学校

自宅でプレゼント用の折り紙・独楽の製作をした／少人数・短時間・時間差・会話を控えるなどを徹底した／緊急事態宣言中は活動を中止した／子ども食堂は弁当配布に切り替えた／上演活動は密となるので中止となった／区の委託事業や学習会は日程を調整して何とか実施できた／地域の子どもの交流ができなかった

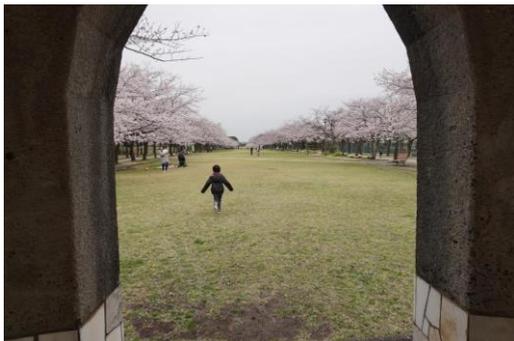
○生活会議

ウォーキングの行先を都心から郊外に変更した／清掃美化活動実施後の懇談会は中止した／感染防御しつつ公園の美化活動を実施した／会議・定例会は縮小・中止になった／カブト虫捕獲は影響なく実施できた／やごの救出活動はクラス単位での実施となったので負担が倍以上となった／環境フェアは2年連続で中止となった／住民参加のイベントは中止となったが他は計画通り実施した／活動後の食事会が中止となった／施設が利用できない間は自宅で布マスクを作り社協に寄付した／10時から16時の活動時間を12時30分から15時までとした／パラリンピックにヒントを得て視覚障害の方にも楽しんでもらえるお手玉を試作した／稲作の作業を組み合わせして実施した／野外学習を学年単位からクラス別で実施したが負担が大きかった／河川清掃は緊急事態宣言中は中止とした／環境整備作業は全体から個人・少人数での活動にならざるを得なかった／フリートークの会をオンラインでも実施した／子育て家庭への訪問事業をコロナ禍だからこそ来てほしいとの要望を受けて訪問者の体調管理から気をつけ実施した／部会活動をZOOM上にオンラインコミュニティを作り行った／定例会をオンラインで行うことが多かったが不参加になる会員もいた／自治体主催のイベントの多くが中止となり活動の場が縮小した／子ども食堂を持ち帰り方式に変更して利用者が増え、さらにフードパントリーに切り替えたが利用者はまた増えた／会員の全てが高齢者のため活動を休止せざるを得なかった／定例行事は全て中止となったがニュースの発行で情報交換した／密になる行事は全て中止にした／コロナ禍が2年以上に及び高齢会員の退会が目立ってきた／自宅練習を奨励した／会の運営者としてはお先真っ暗／情報発信提供を主に実施した／活動できたのは映画サロンだけ／ウォーキングなど屋外の活動を多くした／毎年100人程度で開催していたイベントを1/3にして開催せざるを得なかった／チャリティ小物市やバスツアーが2年間中止となった／できないことをや

めて、できること、やり方を考えて実践した／計画の休止等の連絡の徹底に苦労した／会員の高齢化が進んでおり「うつる・うつす」対策に苦労した／オンライン会議・シンポジウム開催のスキルを獲得できた／河川の清掃活動は回数を減らして実施したが、他地域の下水道からコロナウイルス検出の報道があり中止した／自主的に活動を自粛する人もいたが月2回の活動は実施できた／イベントや体験会は広報の自粛や規模を縮小して実施した／野外活動はできなかった／分散型イベントとオンラインによるAIイベントに参加して情報発信した／ウォーキングを兼ねた地元文化財探訪は好評を得た／人気の映画サロンはほとんど中止となった／目玉のコンサートが会場入場制限で延期となった



東京都多摩市 奈良原公園



東京都多摩市 宝野公園

ONPO法人等

感染拡大時には子どもワークショップが延期または中止となった／おとなワークショップはオンライン対応でも実施した／日程変更がありスタッフの確保に苦慮した／会議はZOOMを利用して行った／「わらべうたあそび」は三密を避けては成り立たないので「あそびのたまてばこ」に替えて行った／キャンプ等衣食住を伴う集団活動はこの2年間実施できず代わりに日帰りハイクを実施した／コロナ禍だからこそ「生の体験」が必要という思いで緊張感をもって活動した／三密対策として消毒・検温等手間と経費を要した／普段より大きめの会場を確保する必要があり経費がかかった／ZOOMやLINEが会員に早く浸透し交流が図れた／予約していた会場が使用できなくなって中止にしたり別会場を探すなど振り回された／少しでも文化が届くように小さな企画でも実施した

地域活動ルポ

◆子ども劇場公演「竜潭譚(りゅうたんたん)」

照明を落した空間にか細い鈴(れい)の音が鳴り響くと、一瞬にしてそこは非日常の空間に様変わりした。忙しない日常生活から一瞬にして非日常の空間に切り替えてくれることが、芸術の大きな力である。本を読む、音楽を聴く、絵を見る、芝居・映画を見る等々により、束の間、日常の憂さから解放される空間に誘ってくれる。今回、立川子ども劇場からご案内を受け、泉鏡花原作の浄瑠璃×人形×パントマイムによる「竜潭譚」講演を見させていただいた。この公演は、多摩・立川・八王子・日野の4つの子ども劇場による高学年向けに合同例会として開催されたものであり、パンフレットには「泉鏡花の耽美的な世界を球体関節人形と常磐津、パントマイムという異色の組合せで表現します。最小限の出演者に絞り無駄な描写をそぎ落としたことで生まれる緊張感、空気が止まったかのような美しさと日本の美をご堪能ください」とある。泉鏡花の描く耽美的な世界とは何か、球体関節人形とはどういったものか、常磐津はどういうもの、パントマイムが入るのはどういう意図なのか、等々際限なく疑問が広がり、解説が必要になる。否、理屈で考え理解するのは場違いなのかもしれない。虚心坦懐、余計な知識なしに無心となり鈴の響く非日常空間に入り込めば良いのだろう。それは、大人はなかなかできないが、柔軟な感性を持つ子どもたちならばこそ、より良く味わえるのかもしれない。その意味で、会場に子どもたちの姿が少なかったのは残念。当日、会場で非日常空間に浸った大人たちが、別な機会子どもたちを誘ってもらうのを期待したい。



◆子どもひろば NPO法人市民共同学習プロジェクト



東京都立川市 たかのみち保育園

「いじめのリアル」という本が紹介されている新聞記事を目にした。そこには「いじめを防ぐ出前授業を小中学校で20年以上続けるNPO法人の高橋真佐美代表理事が、授業に参加した子どもたち2万人余のアンケートを本にまとめた。いじめられている子には『ひとりじゃない』、大人には『当事者の声に耳を傾けて』と伝えるためだ。」(朝日新聞2022年2月28日)とある。いじめは今も昔もなくなるしない永遠に取り組むべき課題であり、様々な取り組みが奏功してやっとこの程度に抑えられていると見なければならぬ。高橋さんのような地道な努力があってこそこの現状なのである。早速連絡をとり、この4月から小学生になる保育園の年長さんたち向けのワークショップを見学させてもらった。様々な場面で見知らぬ人に声をかけられたら、具体的にどうやって断るのか、やって見せて園児たちにも実演してもらおう。保育園ま

ではあった送り迎えが無くなる新1年生にとっては、大事なスキルである。何よりも、実際に声に出して断る訓練は役に立つのだろう、と大いに納得させられた。がんばれ、一年生🍎。

▽ひとこと ロシアによるウクライナへの軍事侵攻のニュースは、連日流され続けている。21世紀にこのような戦争が、しかも大国ロシアによって引き起こされるとは想像できなかった。ウクライナに向け高性能ミサイルが打ち込まれ、おびただしい戦車群による地上攻撃という新旧入り乱れての武力行使には、ただただ驚くばかりである。これが現代のましてや大国のやることなのか。抑止力として保持していたはずの兵器を、惜しげもなく実戦に投入して殺戮を繰り返す。生物化学兵器はおろか核兵器の使用まで行き着くのではないかと不安も募る。NATOを中心としたウクライナ支援が強化されて、事態がどう展開するのか予想もできない。新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミックが、いまだ終焉を迎えてもいないこの時期に一体何を考えているのか。一体どうしたら殺戮は止まるのか...。(竜)